

1. 地(知)の拠点フォーラム開催報告
2. 坂井市との包括的連携協定を締結
3. 事業紹介
4. 実施報告

ニュースレター

<発行> 福井大学 COC 推進機構

1. 地(知)の拠点フォーラム開催報告

2月18日、文京キャンパスにおいて、『学生と考える福井の未来～キャンパスからの創生～』と題し、「地(知)の拠点フォーラム」を開催しました。地域と連携して活動を行っている学生、教員42名と、連携自治体職員、地域住民、新聞、テレビなどの報道各社、及び金融関係者ら約30名が参加して、①人材育成、②高齢化と暮らし、③公共交通、④中心市街地活性化、⑤地域活動の5つのテーマに分かれ、それぞれ意見交換を行いました。

公共交通のグループでは、学生が、地域の駅舎を中心に、訪れる人も、住む人にも魅力的なまちづくりをコンセプトに、まちづくりのアイデアを提案しました。

また、地域活動のグループでは、継続性や経費の問題等現実的な観点からの意見を受けて、学生は、「活動を継続するためには、地域住民との対話が不可欠であり、活動をする私たちが目標を持たないといけない」と新たな課題を見出していました。

グループ別の意見交換会後に開いた全体会では、参加者から「日頃気づかない視点から、意見をもらうことが出来て勉強になった」「様々な立場の人と、同じ立ち位置で意見交換ができ有意義であった」などの声が聞かれました。

福井大学では、このようなフォーラムを通じて、地域社会と連携した教育・研究活動の成果を発信するとともに、学生の主体的な学びを促進し、地域志向の人材を育成していくこととしています。



全体会で発表する「高齢化と暮らし」のグループ

2. 坂井市との包括的連携協定を締結

3月2日、福井県坂井市との包括的連携協定を締結しました。

福井大学と坂井市は、これまで医療面を中心に、各種委員会委員・アドバイザー、講師派遣等により連携を深めてきました。このたび、地域社会の持続可能な発展と地域志向の人材育成及び学術の振興に寄与することを目的とし、より一層の連携を図るため、包括的な協定を結びました。

協定書を交わした坂本憲男坂井市長は「福井大学がもつ専門知識と人材を市政に活かしたい」、眞弓光文学長は「地方創生には地元の努力も不可欠。地域の知の拠点として大学の活動の強化を市と連携して取り組みたい」と述べました。

本締結により、地方創生戦略や地域医療連携を積極的に進めることとしています。



協定書を手にする坂本憲男市長(左)と眞弓光文学長(右)

3. 事業紹介

子どものこころの診療・療育体制の構築（分野：地域医療の向上）

子どもたちの「こころ」の育ちに関する諸問題の解明に取り組むべく設置された福井大学子どものこころの発達研究センターでは、大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学とも連携し、発達障害の病態解明、早期診断や治療に向けた先端的研究を実施するとともに、特に本連携事業においては、福井県による「子どもの心の診療医養成事業」に参画し、地域での診療の充実を目指すべく活動を行っています。

永平寺町の母子を対象とした母子コホート研究では、平成27年1月までに計240組の母子の協力が得られており、研究開始時の母子は現在3歳児です。3・4ヶ月時点と10ヶ月時点において得られたデータを解析した結果、父親の育児不参加は、母親のメンタルヘルス不良を介して、子の社会性発達に悪影響を及ぼしている可能性も示唆され、家族関係が子の社会性発達に及ぼす影響の因果関係の一端を明らかにすることが出来ました。同時に、子の社会性発達を客観的で非侵襲的に計測する方法として5大学で進めている視線計測が世界的に注目されていますが、私たちは、10ヶ月発達相談と1歳半健診の場へ導入し、研究を進めています。(図1)。予備的検討の結果、自閉症児では非定型な視線パターンの背景として、オキシトシンの機能不全が存在する可能性を示唆する結果を得ています。これらの成果については欧州英文雑誌にて報告を行い、新聞やテレビ報道等でも取り上げられました。

さらには、本学を含むこれら5大学で構成する連合小児発達学研究科とも手を携え、県内外で活躍し得る子どものこころ専門家育成を進めるとともに、医教連携を念頭に、学内での教育充実に展開する準備も積極的に行っています。



(図1)かおテレビ

子どもの視線を赤外線で測定し、子どもの「社会性」の発達水準を数値化する。実際の測定は、約2分間の動画を見るだけで可能。

4. 実施報告

学生防災サポーター参画による地域防災の活性化（分野：持続可能な社会・環境づくり）

12月14日、永平寺緑の村ふれあいセンターにおいて、福井大学と永平寺町が連携し、「つながれ地域の絆～学ぼう！災害時の応急手当～」をテーマに講習会を開催しました。

当日は、地域住民を対象に、災害基礎知識・心肺蘇生法や三角巾による応急手当等について永平寺町消防職員及び本学の大学生防災サポーターが指導し、実技を交えて住民同士の交流を深めるとともに、起こりうる災害に備えて、災害ボランティア活動が迅速に行えるよう協力体制を整えることを目指しました。

町民からは「若い力ある大学生防災サポーターが主体となって、講習会を企画・開催することで、町民の防災・減災に対する士気が高まっている」、参加した学生からは「今後も、地域で行われるイベントに参加し多くの町民との顔の見える関係づくり、町民を交えた防災訓練等を企画していきたい」などの声が聞かれました。


福井大学では、引き続き本事業を継続することで、地域住民との絆を強め、自助共助公助により災害に強いまちづくりの推進に取り組みます。



三角巾の使用法講習を行う大学生防災サポーター

<編集後記>

2月18日に開催した「地(知)の拠点フォーラム」では、予定者数を超えて多くの方に参加いただきありがとうございました。活発な議論が行われ、厳しいご意見、励ましの言葉をいただきました。次回のフォーラム開催や今後の取り組みに繋がっていきたく思います。また、本学と連携協定を締結している県内自治体も、今回で9自治体となりました。今後も地域との連携をより一層深めるために、未締結の自治体との締結を予定しています。

これらを通じて、今後も大学と地域との距離を縮めていきたく思います。(福島) 



国立大学法人 福井大学

COC推進室

Office for the Center of Communities

〒910-8507 福井県福井市文京 3-9-1

TEL.0776-27-9879 / FAX.0776-27-8878

<http://coc.ad.u-fukui.ac.jp> E-mail coc@ad.u-fukui.ac.jp

